

# 衆議院法務委員会ニュース

平成 22.4.20 第 174 回国会第 8 号

4 月 20 日（火）第 8 回の委員会が開かれました。

## 1 刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律案（内閣提出第 53 号）（参議院送付）

- ・千葉法務大臣、中井国務大臣（国家公安委員会委員長）、加藤法務副大臣及び最高裁判所当局に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 野 木 実君（民主）

- ・公訴時効の廃止・延長について、公訴時効制度の趣旨との関係でどのように説明するのか法務大臣の所見を伺いたい。また、今回の改正は、一部の被害者・遺族の声に引きずられたのではないかとの声があるが、法務副大臣の所見を伺いたい。
- ・本法律案は、現に時効が進行中の事件についても適用することとされているが、遡及処罰の禁止を定めた憲法第 39 条との関係について、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・被害者・遺族が真に望んでいるのは、捜査を継続することではなく、犯人が捕まることだと思うが、今回の改正による犯罪検挙率向上の見込みについて、法務副大臣の所見を伺いたい。

### 山 口 和 之君（民主）

- ・我が国の矯正行政において、再犯率の高さが問題とされているが、再犯率低下に向けた改善指導プログラムの効果を具体的に検証する必要性について、法務副大臣の見解を伺いたい。
- ・現在、犯罪者の改善・更生及び社会復帰にとって重要な役割を果たしている保護司の高齢化や人材難が問題となっているが、今後の保護司の確保策についての見解を伺いたい。
- ・本法律案について、周知期間を置かずに公布日に施行とした趣旨について伺いたい。

### 石 森 久 嗣君（民主）

- ・平成 16 年改正において措置された公訴時効について、今回改めて廃止・延長を行う理由について、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・公訴時効の廃止により、かえって被害者・遺族の気持ちに区切りがつかず、悲しみを引きずることになるのではないかとの意見について、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・公訴時効を廃止・延長することによって、これまで以上

に自白の強要等によるえん罪の危険性の増大が懸念されることから、同時に取調べの可視化を導入する必要があると考えるが、法務大臣の所見を伺いたい。

### 山 尾 志桜里君（民主）

- ・司法に対する信頼醸成に向けた今後の努力について、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・（財）司法協会が行う事件記録謄写業務の謄写料金及び同協会の役員・一般職員の元職について、法務副大臣に伺いたい。また、謄写料金の改定経緯と今後の在り方について、最高裁判所当局に伺いたい。
- ・（財）矯正協会の会長の元職と報酬額、役員の常勤・非常勤の別等について、法務副大臣に伺いたい。
- ・法務省所管公益法人への天下りに対する法務大臣の所見を伺いたい。

### 稲 田 朋 美君（自民）

- ・公訴時効の改正について、民主党の政策集 INDEX 2009 で唱えていた内容を一旦白紙に戻し、再検討、修正をして、法案を提出した理由について法務大臣に伺いたい。
- ・公訴時効の廃止により予想される捜査現場の負担増大への対策について国家公安委員長に伺いたい。
- ・法務大臣が選択的夫婦別氏に係る法案を今国会で成立させたいと考える真意を伺いたい。

### 柴 山 昌 彦君（自民）

- ・小沢民主党幹事長の政治資金規正法違反に係る検察審査会の議決が近日中に行われる可能性があるが、不起訴不当又は起訴相当となった場合には、その結論は尊重されるのか、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・鳩山内閣総理大臣の元秘書の判決公判が明後日にあるが、判決が確定し、検察から書類が返還された時点で、国民に対して総理自らが適切に説明するように説得するつも

- りはないか、法務大臣及び国家公安委員長に伺いたい。
- ・公訴時効の撤廃・延長について、時効完成前の犯罪のみ適用し、既に時効が完成したものを除外するのはなぜか、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・業務上過失致死の公訴時効が5年から10年に延長されることに伴い、医師の心理上の負担の増大や医療行為の萎縮を招くおそれがあるが、どのように配慮していくのか。また、多くの人死亡した事故と医療事故を同様に扱うのは疑問が残るので、業務上過失致死傷の構成要件を細分化することはできないか。

## 馳 浩君（自民）

- ・公訴時効制度の趣旨の一つとされる「事実状態の尊重」は同制度の趣旨から排除すべきではないか。また、法制審議会ではそのような議論はなされたのか、法務大臣に伺いたい。
- ・今回の法改正では犯罪被害者の声は反映されていると思うが、内閣府が行った基本的法制度に関する世論調査をよく検証してみると、時効廃止を望んでいる国民は多いとは言えないのではないか。法務大臣に伺いたい。
- ・今回の法改正では死刑制度を前提とした上で、それが法定刑にある犯罪について公訴時効を廃止するものであるが、法務大臣も死刑制度存置を認めたものと受け取ってよいか、見解を伺いたい。

- ・悪質なひき逃げ犯の逃げ得を許さないようにするためにも、公訴時効期間の延長をするか、刑罰を重くするべきであると思うが法務大臣の見解を伺いたい。

## 大口 善徳君（公明）

- ・本法律案の提出に当たって、被害者遺族等の声や国民の意識をどのように把握したのか。
- ・本法律案においては、いわゆる遡及適用を認めているが、平成16年の刑事訴訟法改正の際にはこれを認めなかったこととの整合性について説明願いたい。
- ・事件発生から長期間経過後に起訴された事件の審理の在り方について、最高裁当局及び法務大臣の見解を伺いたい。
- ・殺人等の重大事件の捜査態勢の現状と、時効が廃止された場合の捜査態勢の在り方について国家公安委員長の見解を伺いたい。また、公訴時効が廃止された場合の最終的な事件の処分の在り方について法務大臣の所見を伺いたい。